

研修会 城に残るシダ

400 年の歴史と緑が残されている佐倉城址公園でたのしいシダ植物観察

神 伴之(佐倉市)・松尾千鶴子(八千代市)

日 時：2016 年 4 月 13 日 (水) 10:00～14:00 天候：晴

講 師：村田 威夫氏 (千葉県のシダ植物相研究家)

参加者：指導員 27 名 + 非会員 6 名 = 33 名

担当：佐藤一枝

シダは苦手、しかし、現場が佐倉城址というチャンスにあえて飛び込んでみた。講師第一声「今日はシダの同定会ではない。」あえておっしゃるということはシダの名前を教えてもらいたいという参加者が多いとみてのことか・・・観察会が始まる。

まず姥が池までの坂の途中に何種類のシダがあるか観察。参加者は 5 以下から 10 以上まで様々。そこでの解説はなく、最後になにかあるらしい。次は環境。池に隣接する斜面は湿気が多くシダが多い。次にシダの形態。地上に出てているのは葉。識別は葉と胞子。花が咲く種子植物と違って識別点が少ない? これがシダに向かう意欲がそがれる原因か。よく見るのは複葉だが、単葉 (ノキシノブ) もある。複葉は葉軸に羽片がつき羽軸に小羽片がつく。ベニシダは最下羽片の下向き第一小羽片は、隣の小羽片より小さい。イタチシダは長い。読んだだけではさっぱり不明。しかし現物の観察でよくわかった。花がなければ葉をよく見ればそれはそれで様々な形がありおもしろい。じっくり見るとというのはシダに限らず生き物を見る目に大切なことを改めて感じた。

午後からは類似シダの観察ポイントを教わった。

葉柄の鱗片の色—黒褐色・・オクマワラビ

栗色・・イノデの仲間

葉柄の鱗片の形—細くてねじれている・・アスカイノデ。

広くてねじっていない・・イノデ

最下羽片の下側基部小羽片—短い・・ベニシダ

長い・・ヤマイタチシダ

裂片が少し裏に巻く、辺縁の鋸歯殆どなし・・ヤマイタチシダ

裂片が反曲しない、辺縁に小さな鋸歯・・オオイタチシダ

葉軸—毛あり、溝なし、・・ミゾシダ (胞膜なし)

毛なし、溝あり、・・シケシダ (胞膜あり)

葉軸—上部に翼あり・・イノモトソウ

上部に翼なし・・オオバイノモトソウ

胞膜の形—円腎形・・ベニシダ

馬蹄形・・イヌワラビ

これらを踏まえ、帰りに朝降りた同じ坂を上がって行き何種類のシダがあるかもう一度数えた。皆、往きよりも数が増え、識別ができるようになっていた。

また、生殖を行うための前葉体を教えてもらい、皆で地面に這いつくばって小さな緑色の平たい心臓形のもの見て感動した。絶妙な切り口でシダを身近にして頂いた村田先生、企画頂いた担当の方、佐倉野草会の皆さんに感謝いたします。

ベニシダの胞子嚢群

